みおつくし 福祉・介護の仕事 きらめき大賞選考会

【開催】 令和８年９月 11 日

【委員】 座　　長　　鈴木 大介　（大阪成蹊大学 教育学部 准教授）
座長代理　　堀江 幸代　（社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 事務局次長兼福祉部長）
委　　員　　淺野 幸子　（公益社団法人 大阪介護福祉士会 会長）
委　　員　　瀬戸 康男　（大阪市障害児・者施設連絡協議会 役員）
委　　員　　田中　綾　（一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 理事）
委　　員　　水流添 真　（公益社団法人 大阪社会福祉士会 理事）

【講評】

賞	タイトル／受賞者	講　　評
最優秀賞	「ほな、いっぺん帰ってみましょうか」 吉村 佳実 社会福祉法人 大阪自彊館 特別養護老人ホーム ジュネス	認知症の方の「帰りたい」という思いに正面から向き合い、家族との対話の積み重ねによって支援の方向性を前向きに整え、他の専門職とも連携し、本人の希望と安全の両立を図って帰宅を実現したプロセスが具体的に描かれている。「できない理由」ではなく「どうすればできるか」をチームで探る介護の魅力が伝わる作品である。
優秀賞	あふれだした笑顔のつながり ～特別な一日を生むための連携日記～ 大林 明真 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホーム こうのとり	様々な困難をチームで乗り越え、楽しいイベントを実践的な防災訓練へ発展させた行動力が光る。福祉・介護の仕事は、入居者に直接かかわる生活支援だけでなく、暮らしを彩る環境づくりも担うこと、さらに福祉施設が地域のつながりを育む拠点であることを伝える作品である。
優秀賞	100 年目の旅立ちを支えた 77 日間の絆 ～家族と共に新設事業所の仲間で 寄り添った、最期の時間～ （非公開） たのしい家姫島	新設事業所として、本人の意思と家族の願いを受け止め、多職種・入居者も含めたチームで看取りに向き合った 77 日間が丁寧に描かれている。誕生日を迎える準備や日々のケア、排泄へのこだわりまで、一人の人生を尊重する支援の尊さと、福祉・介護の仕事が紡ぐ絆の力が伝わる作品である。
特別賞	「わたし、奇跡の人やねん！」 中本 祐司 社会福祉法人 和悦会 浜特別養護老人ホーム	異業種（小売業）から福祉施設へ転職した作者が、脳梗塞で入居された Ｍ さんの「歩きたい」という願いに寄り添い、日々の見守りと声かけを重ねながら支えた過程を描いている。入居者の力を引き出し、生きる喜びへとつなげ、関わりを通じた作者自身の成長を感じられる、介護の魅力が伝わる作品である。
特別賞	初めての誕生日会 吉村 幸恵 社会福祉法人 大阪自彊館 西成区東部地域包括支援センター	末期がんで独居の Ｔ さんの「住み慣れた家で自分らしく」という思いに寄り添い、医療・介護・関係機関が連携して在宅生活を支えた過程が描かれている。誕生日会の温かな場面が、支援者と利用者の信頼関係を示し、地域包括支援の魅力が伝わる作品である。
特別賞	言葉を越えたコミュニケーション グエン ティ タイン マイ 社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センターフェニックス	言葉での会話が難しい利用者との関わりを通して、表情や視線から思いを受け取り合う「言葉を超えたコミュニケーション」の力が描かれている。異国で喪失を抱える作者が、利用者のまなざしと涙に共感を受け取り、結果として心が支えられていく場面は、ケアが相互の支え合いであることを伝える作品である。